



MÉXICO NEWSLETTER - 118

在日メキシコ大使館刊行物
2014年2月－4月

在日メキシコ大使館
〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-15-1
<http://embamex.sre.gob.mx/japon>

Mexico Newsletter 第 118 号 (2014 年 2 月 - 4 月)

1. はじめに
2. 透明性改革法の公布
3. 核兵器の使用が人道に及ぼすインパクトに関する第 2 回国際会議
4. 第 3 回核セキュリティ・サミットへの参加
5. NPDI 広島外相会合
6. 効果的な開発協力に関するグローバル・パートナーシップ第 1 回ハイレベル会合
7. メキシコと日本：第三国向け協力パートナーシップの 10 周年を祝う
8. 太平洋同盟第 8 回サミット
9. 上院アジア太平洋外交委員長、日本を実務訪問
10. FOOD EX JAPAN 2014 への参加
11. サカテカス州知事の実務訪問
12. イダルゴ州政府先遣隊の訪日
13. メキシコ税制改正セミナー
14. メキシコでのビジネス環境と法的留意点に関するセミナー
15. 原産地呼称保護に関するテキーラセミナー
16. メキシコの青年たちがグローバル・リーダー育成プログラムに参加
17. ホンダのメキシコ国内第 II 工場が稼動
18. マツダ新工場開所式
19. 海外で活躍するメキシコ人のグローバル・ネットワークを紹介する番組の制作
20. メキシコ政府奨学金 2014 特別プログラム募集
21. 第 42 期日墨グローバル・パートナーシップ研修計画の面接試験
22. 第 42 回セルバンテノー国際フェスティバル、日本が来賓招待国に
23. 書籍「太陽の石」(Piedra de Sol 共訳) 完成発表会
24. 文化イベント掲示板



現政権の発足で始まった、近代的で公正な繁栄するメキシコへの変身プロセスが継続している。今回の México Newsletter では、実績と効率と行動を重視する現政権の公約を構成する「透明性改革」法の公布を紹介する。

多国間関係の分野では、メキシコの伝統的な平和主義の具体的活動例として、核軍縮推進国メキシコの国際的な評価をふまえたナジャリー州での「核兵器使用が及ぼす人道上のインパクトに関する第 2 回国際会議」開催に言及し、加えて、「第 3 回核セキュリティ

ー・サミット」や「第 8 回 NPDI(軍縮・不拡散イニシアチブ)外相会合(於 広島)」への参加について述べる。さらに、「効果的な開発協力に関するグローバル・パートナーシップ第1回ハイレベル会合」及び「太平洋同盟第 8 回サミット」の様相も紹介する。

二国間関係の良好な現状を示す活動は多々存在するが、今回はその中から数例を特筆するにとどめる。第 42 回セルバンティーノ国際フェスティバルの来賓招待国として日本を招聘、第三国向け支援日本メキシコ二国間協力パートナーシップ 10 周年記念式典、連邦議会上院アジア太平洋外交委員長の訪日、サカテカス州知事の来日、ホンダとマツダの新工場開所式典、などを挙げる。

最後に、教育・科学技術分野の協力事業や文化芸術のイベント予定などにふれる。

また、クロド・ヘレル大使についてのご報告があります。エンリケ・ペニャ・ニエト大統領より Embajador Eminente(仮訳: 上級大使)に任命されたことをひとつの節目として、駐日大使の職務を離れ、4 月 30 日に帰国致しました。読者各位へお知らせする次第です。約 2 年半に及んだ在任中、対日関係が著しい深化を遂げました。その成果には、この関係を取り巻く環境、数世紀に及ぶ友情とその上に築かれた戦略的グローバル・パートナーシップが大きく寄与したと考えられます。

透明性改革法の公布



公共部門の活動における透明性の拡大や情報の開示を促進する観点から、エンリケ・ペニャ・ニエト大統領は、2月7日、透明性改革法の公布を実施した。同法によって、行政府、立法府、司法府の各組織当局、独立法人や政党、基金や法人、労働組合を含むあらゆる団体に情報の開示が保証(義務付け)される。公共の利害あるいは国家安全保障上の理由から公開にそぐわない情報のみが一時的な留保の対象となる。

主要な規定: 憲法上で Instituto Federal de Acceso a la Información y Protección de Datos (IFAI: 情報アクセス・データ保護連邦局[仮訳])の自治権を確立。全国32州で個人データの保護と公共情報へのアクセス権を保証する地方レベルの団体を設立する拠点の整備。政党、組合、基金、法人などの公共資金を受領する団体のすべてが、この透明性改革法の規制対象となる。IFAIの決議は決定的であり、反論し得ないものである、但し、個別情報の流布が国家安全保障に悪影響を及ぼす可能性がある場合で、大統領府法律顧問が Suprema Corte de Justicia de la Nación (SCJN: 国家最高裁判所[仮訳])裁定への不服を申し立てた場合を例外とする。他の自治権を有する団体も、IFAIの活動が自らの業務に支障をきたすと判断した場合には、それに異議を唱えることができる。IFAIの委員を5名から7名に増員する。連邦議会上院は、新規の委員選考に必要な募集をおこない、議会内各種会派は最適な人材を選出する。

核兵器の使用が人道に及ぼすインパクトに関する第 2 回国際会議



2月13日と14日の2日間、ナジャリー州ヌエボ・バジャルタ市で、核兵器の使用が人道に及ぼすインパクトに関する第2回国際会議が開催された。核軍縮に向かう国際的な議論を推進する必要性がたかまる中で、2013年の3月4日と5日にノルウェーのオスロ市で催された第1回会議での討議を引き継ぐ形で、メキシコはその主催を決断した。

今回メキシコでおこなわれた第2回会合には、世界中から146ヶ国の政府代表、125のONG、国連内外の国際機関10団体、各国赤十字35社、議会関係者、学者などが参加した。

核兵器の無い世界の構築に向けた各種イニシアチブの提出を含めたナジャリー会議の開催によって、メキシコは、グローバルな責任を担うプレーヤーとしてのコミットメントを繰返す成果を示した。

第3回核セキュリティ・サミットへの参加

グローバルな責務を担う国家を標榜するメキシコは、3月24日と25日の両日、オランダのハーグ市で開催された第3回核セキュリティ・サミットに参加した。同会合には、世界の53カ国が参加し、そこにはラテンアメリカ地域からの4カ国が含まれ、国際機関4つの代表も出席した。開催の目的は、世界各地に存在する核関連の物質や施設の安全性確保に必要な施策やコミットメントの強化であった。参加した代表者たちは、共同コミュニケを採択し、核テロ防止策、脅威を縮小するための関連施設安全対策の改善をめざす方針の確認をおこなった。



メキシコにとって、NPT(核兵器不拡散条約)を支える三大原則:(核軍縮、核不拡散、原子力の平和的利用)は、すべての国が互いの努力を傾注すべきプロセスであることを強調した後に、後者二つの目標では進捗が見られるものの、核軍縮では進展が無い点を遺憾とした上で、意図的であれ事故であれ核爆発の発生が人類に及ぼす悲惨な結果を考慮すれば、核兵器が意味するリスクと脅威を失くす唯一の保証は核兵器の廃絶であることが明白であるとの主張を繰返した。

NPDI 広島外相会合



4月11日及び12日の2日間、広島市で、第8回NPDI(軍縮・不拡散イニシアティブ)外相会合が開催された。この有志国グループは2010年に創設されており、日本とメキシコ以外には、ドイツ、オーストラリア、カナダ、チリ、アラブ主長国連合、フィリピン、ナイジェリア、オランダ、ポーランド、トルコ、を含む計12カ国で構成されている。

討議の中では核兵器撤廃への道程に残された課題が強調され、閉会時に発表されたコミュニケは核兵器の使用が及ぼす人道上の悲惨な結果の認識を世界各国のリーダーに要請し、核軍縮に向けた多国間努力の実践を提唱した。

効果的な開発協力に関するグローバル・パートナーシップ第1回ハイレベル会合



4月15日に開催された「効果的な開発協力に関するグローバル・パートナーシップ第1回ハイレベル会合」にはペニャ・ニエト大統領が出席し、開会の辞を述べた。挨拶では、国際協力こそが外交政策の中核を占める原則であると強調した上で、メキシコが担うグローバルな責務の履行をめざす中で、三つの施策を掲げている。

第一に、効果的な開発協力の基本的諸原則の制度化、即ち、被援助国の掲げる優先目標に沿った国際援助の決定や実績・透明性・収支決算重視型の施策、包摂的開発のためのパートナーシップ創設などが重要である。

第二に、国際援助の質的改善と量的拡大。中米及びカリブ地域でのインフラ整備プロジェクトを支援する経済援助に加えて、メキシコは全世界に対して各種分野に関する技術協力と学術協力を提供する。

第三に、包摂(インクルージョン)をめざすグローバル・イニシアティブの採択を推進する。食料・教育・所得・保健・社会保障・居住関連基本サービスなどを含む開発にまつわる多種多様な分野での有意義な目標設定が不可欠。



メキシコと日本: 第三国向け協力パートナーシップの 10 周年を祝う



2月10日と11日の2日間、メキシコ市で、AMEXCID(メキシコ国際開発協力庁)とJICA(国際協力機構)の後援により、「JMPP(Japan-México Partnership Program: 日墨パートナーシップ・プログラム)締結10周年記念フォーラム」が開催され、約150人の参加があった。このプログラムを通じて、両国は、ラテンアメリカ地域の経済社会開発に貢献するという共通目標の達成をめざしている。

この10年間にわたる共同作業を介して、メキシコと日本は、13回に及ぶ人材育成の研修を地域各国で提供する努力を重ねてきた。その結果、中南米諸国から招いた延べ626人の研修員に、第三

国研修の形式で支援を提供することができた。また、三角協力のプロジェクトも6件が実施された。対象となった分野には、環境(汚水処理や生物連鎖など)、産業発展、技術教育、保健(子宮頸がん対策)、防災、農村開発などが含まれる。この日墨共同プログラムの10周年記念フォーラム(セミナー)開催に際し、両国は互いに恩恵をもたらし、あるいは第三国に恩恵を与える協力の絆を強化する意志を再確認した。

太平洋同盟第 8 回サミット



Alianza del Pacífico

「太平洋同盟(アリアンサ・デル・パシフィック)」第 8 回サミットが、2 月 10 日、コロンビアのカルタヘナで開催され、チリ、コロンビア、ペルー、メキシコの 4 カ国大統領が本同盟枠組み協定の追加議定書に署名した。そこには、加盟国が設定した貿易上の各種合意事項が記されており、各国の立法府による審議に付される。各国首脳が今回の署名を終えたことで、貿易問

題に特化した交渉第一段階は終焉を迎えた。

カルタヘナ宣言も発表し、そこには、加盟 4 カ国間の統合プロセスをめぐるコミットメントの補強がなされ、財やサービス、資本や人の自由な移動を認める経済圏の創設が達成すべき目標に掲げられている。同様に、オブザーバー参加国との関係に対する処遇や同盟の抱える課題や将来への展望に関する討議結果を記した上で、第 9 回サミットの開催場所をナヤリー州(メキシコ)のプンタ・ミタと決定し、太平洋同盟の暫定議長国職務をコロンビアから引き継いだ。

上院アジア太平洋外交委員長、日本を実務訪問



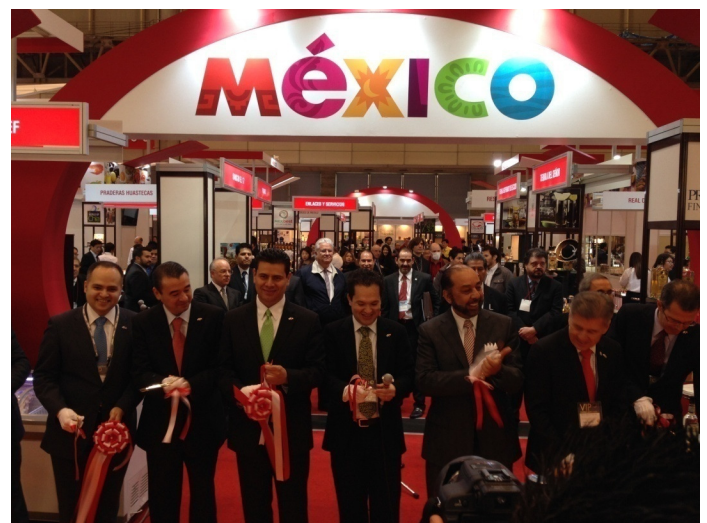
2月27日から3月10日までの10日間、メキシコ連邦議会上院アジア太平洋外交委員長兼支倉使節団400周年記念事業実行委員会名誉会長のテオフィロ・トーレス・コルソ上院議員が、日本を実務訪問した。

日程には、支倉使節団出帆の地である宮城県への表敬訪問や、山崎正昭参議院議長、岸信夫外務副大臣、中曽根弘文メキシコ日墨友好議員連盟会長、末松信介参議院外交防衛委員長など政財界要人との会談が準備され、上院議員はそのスケジュールを精力的に実践した。

FOODEX JAPAN 2014 への参加

2014年3月4日、FOODEX JAPAN 2014において、メキシコ・パビリオンの開会式が催された。このイベントは、日本を含むアジア地域において最大級、世界でも三番目の規模を誇る国際食品飲料展であり、本年で39回目を迎え、78カ国の企業が出展した。

FOODEX2014では、果物、野菜、加工食品、アルコール飲料、食肉の各業界を代表するメキシコ企業79社が参加した。従来と同じように、品質基準は高いが重要な日本市場への新規参入及びプレゼンス強化をめざしている。2013年、メキシコの農産品輸出においては、対日輸出額10億ドル以上に達し、日本はメキシコにとって第2位の輸出市場である。



サカテカス州知事の実務訪問

3月3日、ミゲル・アロンソ・レジェス・サカテカス州知事が4日間にわたる日本での実務訪問を開始し、大使館代表者を含む6名が同行した。東京、横浜、静岡の各都市の視察を経て、日系企業の投資誘致を精力的に行った。

具体的には、豊田通商とのインテンション・レターの交換、FOODEX Japan 2014のメキシコ・パビリオンの開会式、在横浜・日産グローバル本社の訪問、プランテック(Plantec)、村上開明堂(Murakami)、ユニバンス(Univans)の3社の幹部との懇談を経て、サカテカスでの子会社設立の覚書を取り交した。



知事は、メキシコ大使館のエスパシオ・メヒカーノにおいて、訪日の成果を総括する趣旨で、ビデオ会議を行ってサカテカス州の各メディアに報告した。

イダルゴ州政府先遣隊の訪日

4月21日から23日までの3日間、フランシスコ・オルベラ・イダルゴ州知事の訪問準備のために、先遣隊が訪日した。知事の訪問を成功に導くために、先遣隊は、筑波大学、国際協力機構(JICA)、科学技術振興機構(JST)、東京都環境局、一般財団法人日本立地センター(JILC)、厚生労働省、国立社会保障・人口問題研究所等、日本の様々な関係機関と会合を行った。

他方、投資を誘致する目的として、日系企業及び日本貿易振興機構(JETRO)などの主要機関との会合を行った。オルベラ知事の実務訪問は来月6月に実施の予定である。



メキシコ税制改正セミナー

3月12日、メキシコ大使館のエスパシオ・メヒカーノにおいて、プロメヒコ主催及びKPGMコンサルティングの共催により、メキシコの税制改正セミナーが開催された。

開会の辞で、駐日メキシコ大使は、対メキシコ直接投資額において、日本は世界第4位、アジアでは第1位の投資国であると強調。さらに、政治、金融、教育、通信、労働、エネルギーと財政の各方面における極めて重要かつ必要な構造改革の着手は、結果として、メキシコと世界各国、特に日本との通商及び投資を更に促進する潜在能力を有すると指摘した。

本セミナーへの日系企業の積極的な参加は、我が国に対する関心の高まりの証左である。



メキシコでのビジネス環境と法的留意点に関するセミナー



2月12日、メキシコ大使館のエスパシオ・メヒカーノで、プロメヒコ、クエスタ・カンポス総合法律事務所、小島国際法律事務所の共催する「メキシコでのビジネス環境と法的留意点」に関するセミナーが開催された。

セミナー中、メキシコ大使は、多数の日本企業が既に活用している、メキシコが誇る相対的優位点、すなわち、絶好の地理的ロケーション、専門教育を受けた若い労働力、連邦政府各州政府が提供する各種投資インセンティブ、二国間協定を含むEPAとFTAの広範なネットワークの下に世界45カ国計12億人市場へのアクセスが確保されている旨、強調した。

セミナーの参加者は、我が国への投資を考えている企業のメキシコでのビジネス環境と法的留意点(2つの事例を含めて)に関して、プロメヒコの専門家たち及び法律の専門家から有益な最新情報を入手した。

原産地呼称保護に関するテキーラセミナー

3月4日、メキシコ大使館のエスパシオ・メヒカーノで、メキシコ経済省駐日代表部及び農務省駐日代表部の共催により、テキーラセミナーが開催された。CRT(テキーラ規制審議会)、日本政府国税庁、日本の主要なアルコール飲料の製造・輸入・販売業者の関係者75名、そして、Foodex Japan 2014参加のメキシコ企業関係者が出席した。



2013年6月に、「ドン・サパタ」と「ブラック・デス」の2種類のテキーラ偽造品が摘発され、日本政府当局の協力の下、日本市場から排除された。そのことが、セミナーの開催へとつながった。セミナーの趣旨は、日本の輸入・販売業者にテキーラの原産地呼称の要件を説明することで、偽造テキーラの対日輸入防止、メキシコを代表する酒類の原産地呼称保護、そして、日本の消費者の健康を守ることにある。

メキシコの青年たちがグローバル・リーダー育成プログラムに参加

2月12日、日本政府主宰のグローバル・リーダー育成プログラムに、メキシコ人青年9名が参加した。同プログラムには、日本からの88人に加え、ブラジル、フィジー、インド、スウェーデン、タンザニア、バーレーン王国などから72人の若者も参加した。

参加者たちは、自国の歴史や現状について情報を交換し、グローバルな関心事について討論を行なった。また、文化活動を実施したり、東京の様々な側面を探索して回り、2011年3月の東日本大震災被災地の復興作業を視察する目的で、世界青年の船で宮城県石巻港を訪問した。

メキシコから参加した代表チームは、プログラムの一環として、モレーロス州アマトランで集落の学校へコンピュータ機器を送り、またプエブラ州シコテペック村落へ太陽光利用ストーブを寄贈するなど共同体の発展に向けたプロジェクトを実施することになっている。



ホンダのメキシコ国内第Ⅱ工場が稼動



2月21日、グアハルド経済相及びホンダ本社社長が出席したホンダのメキシコ第Ⅱ工場（グアナフアト州セラヤ）の開所式にペニャエ統領が臨席し、開会の辞を述べた。ホンダの新工場では、年間20万台を生産し、FIAT フィアット 500 の2015年モデル、次に新型SUVが製造される。ホンダは、墨日EPA発効から現在までの期間で、1.2兆ドルの対メキシコ投資を行っている。

開所式で大統領は、ホンダのようなグローバル企業による対墨直接投資のおかげでメキシコの自動車産業は強化された旨、強調。同様に、2013年、メキシコの自動車輸出額が97兆ドルを記録し、メキシコの自動車産業に販売ネットワークとサプライチェーンを組み入れることを可能にするメキシコの人的資源と洗練されたインフラ網を力説した。

マツダ新工場開所式



2月27日、エンリケ・ペニャ・ニエト大統領は、グアナフアト州サラマンカ市で行なわれたマツダ新工場の開所式に出席した。この大規模な自動車工場への投資額は7億7,000万ドルで、2016年には生産能力を年間23万台にまで拡大し、4,600人の雇用創出を予定している。

マツダのメキシコ工場設立及びその操業は、同社のグローバル戦略における要であり、メキシコで始まるこの生産が北米、中南米、欧州各市場で高まる需要に応える役割を果たすと期待されている。現在マツダが製造する自動車の70%は日本製であるが、中期的にはこの比率を50%に削減するのが同社の事業戦略である。

チャンネル 22、海外で活躍するメキシコ人のグローバル・ネットワークを紹介する番組を制作



第 100 回海外メキシコ人協会会合に因み、チャンネル 22 は、世界各地で活躍するプロフェッショナルたちに着目したこの同取り組みをモデルケースとして周知すべく、以下の番組を制作した。:

<http://www.youtube.com/watch?v=JVokTKaHTK8#t=13>



卓越したメキシコ人たちの才能は、国内のみならず彼らが居住する社会においても大いなるポテンシャルとなり、これらの社会へポジティブかつ同時に影響を及ぼしてきた。その創設時から、メキシコ外務省 (SRE) 海外メキシコ人協会 (IME) が推進してきたグローバル・ネットワークは、遠隔地に居住しながらもメキシコに貢献する活動をする上で理解の架け橋の役割を果たすことをめざして、設立された。グローバル・ネットワークについての更に詳しい内容は以下のサイトを参照。:

<http://www.rtmglobal.org/about/>



メキシコ政府奨学金 2014 特別プログラム募集

メキシコ政府は、特別プログラムとして、以下に列挙するタイプの外国人向け奨学金を提供する。1) 客員教授、2) ハイレベルの講演、3) メキシコ研究者対象の「ヘナロー・エストラーダ」奨学金、4) 創作活動を含む芸術家の滞在、5) メディア関係者の滞在、6) メキシコ高等教育機関の質的向上に寄与する活動。

特別プログラムや支給適用のプロセスなど詳しい情報に関しては、

http://amexcid.gob.mx/images/stories/becas/p_especiales2014/condiciones_generales.pdf

を参照。

英文での情報は、

<http://amexcid.gob.mx/index.php/es/oferta-de-becas-para-extranjeros/1737>

重要事項: 奨学金の申請は、在日メキシコ大使館に行なうこと。

問い合わせは、在日メキシコ大使館教育・国際協力担当エミ・カメタ・ミヤモトまで。

ekameta@sre.gob.mx, tel. (03) 3581-1131 ~35.

第 42 期日墨グローバル・パートナーシップ研修計画の面接試験

4 月 14 日と 15 日の二日間、在日メキシコ大使館において日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画出願者の面接が行なわれた。今回面接を受けた日本人たちがメキシコで希望する研究テーマは、貿易・国際ビジネス、建築・都市計画、メキシコの舞踊や音楽、観光学、エネルギー問題、水・インフラ、メソアメリカ人類学、社会科学などである。



選抜された研修生は、それぞれの目的に応じ、メキシコの様々な教育機関において専門分野について研究したり、スペイン語やメキシコ文化について学ぶ。

第 42 回セルバンテール国際フェスティバル、日本が来賓招待国に



支倉使節団 400 周年を記念し、日本を本年セルバンテール国際フェスティバルの来賓国に指定した件を発表する記者会見が 2 月 17 日、大使館で行われた。同フェスティバルは、世界中から毎年 40 万人の観客を集め、3,500 人のアーティストが参加するラテンアメリカ域内で最も重要な舞台芸術祭である。プログラムディレクターのマルセラ・ディエス・マルティネス女史は、五嶋龍 氏 (ヴァイオリニスト)、東京打撃団 (和太鼓音楽集団)、八王子車人形 (人形芝居)、チェルフィッチュ (演劇ユニット)、Next Mushroom Promotion (音楽グループ)、バッハ・コレギウム・ジャパン、アンサンブル・ノマド、そしてステージ上でエレクトロニック・アートを見せる Rhizomatiks + elevenplay など、日本からの参加が予定されるアーティストたちを紹介し、関連事項について述べた。

今年のフェスティバルの二大テーマは、フロンティアとシェイクスピア 450 (ウィリアム・シェイクスピア生誕 450 周年) である。また、本年もグアナフアトやメキシコ各地に居住する低所得者たちが「万人のためのセルバンテール祭」構想を介して、公演プログラムの一部に招待される。

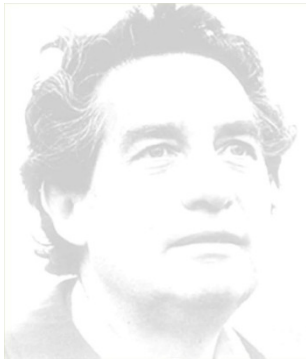
書籍「太陽の石」(PIEDRA DE SOL 共訳) 完成発表会



オクタビオ・パスの生誕百年を祝し、3月31日、阿波弓夫、伊藤昌輝、三好勝、田村徳章、松山彦蔵、後藤丞希の6名共訳書「太陽の石」(Piedra de Sol)刊行を発表し、同詩人に思いをはせる催しがメキシコ大使館エスパシオ・メヒカーノで実施された。

発表会では、一般の出席者から参加を募り、訳文と原文を交互に朗読するセッションも行なわれた。日本語字幕付のビデオ上映ほか21枚に及ぶパスの肖像写真が壁面を飾り、メキシコが誇るノーベル文学賞作家の作品で日本語に翻訳された書籍から20冊余が展示された。当夜のイベントには、パスと共に松尾芭蕉の「奥の細道」西訳を担当した林屋永吉大使、パスと親交のあった文芸批評家・翻訳家ドナルド・キーン氏を含めて、芸術・文学に関心を寄せる80名以上の出席があった。

文化イベント掲示板



5/17 オクタビオ・パス作品:ポエトリーリーディング

ノーベル文学賞受賞メキシコ人作家オクタビオ・パスの生誕 100 周年に際し、文化科学高等研究院出版局から 4 月に刊行された書籍「太陽の石」(Piedra de Sol 共訳)の詩を朗読し、考察するイベント。

場所:江東区芭蕉記念館 午後 6 時 30 分より 定員:50 名
予約・お問い合わせ:070-5456-8577

<http://www.kcf.or.jp/basyo/map.html> 言語:日本語



5/25 ワラーチ 6時間耐久リレーマラソン

タラウマラ族と彼らの運動文化に敬意を表すスポーツイベント。タラウマラ族(ララムリ)の職人が作ったハンドメイドの民芸品が賞品として贈呈される予定。

時間:午前 9 時 30 分 場所:荒川戸田橋陸上競技場(東京都板橋区)

wwrun.jp/list/event01.html



5/28 講演会「マヤ文明の起源と衰退」

マヤ文明の石器文化遺跡とその政治・社会経済組織の謎についての調査研究を語る。

講師:青山 和夫 茨城大学人文学部教授 午後 6 時 30 分-8 時 30 分
メキシコ大使館(東京都)

予約申込: culturalembjap@sre.gob.mx

<http://www.nichi-boku.sakura.ne.jp/index.html>



5/29-6/15 ショートフィルム・フェスティバル

ショートショートフィルムフェスティバル&アジアにおいて、メキシコ国際短編映画祭フィクション部門受賞作品のアレハンドロ・イグレシアス監督作「血の気の引いた少女(原題: Contrafábula de una niña disecada)」(2012年 25分)が上映される。

<http://www.shortshorts.org/2014/>



6/6 ラファエル・ゲーラ ピアノリサイタル

曲目:ラモーン:ガヴオットと変奏曲、ドビュッシー:ピアノのために、ショパン:スケルツォ1番舟歌、スメタナ:3つのポルカ、ロッシーニ/リスト:ウィルヘルム・テル序曲、他
開演:

午後7時 会場:大泉学園ゆめりあホール(東京都練馬区)

http://www.neribun.or.jp/web/01_event/d_oizumi.cgi?no=3720

お問い合わせ・チケット:office@g-clef.jp Tel. 04-7133-5275

5月下旬 映画「闇のあとの光」(原題:Post Tenebras Lux)

「ハポン」、「バトル・イン・ヘブン」、「静かな光」のカルロス・レイガダス監督による2012年カンヌ国際映画祭監督賞受賞作品。渋谷のユーロスペース(www.eurospace.co.jp)などで全国順次公開。

問い合わせ:<http://www.yaminoato.com/>

6/5 講演会「私の先祖は日本のサムライだった～400年前、ヨーロッパに消えたサムライたちは生きていた!～」

メキシコとスペインへ渡った最初の日本人移民について語る。講師:太田尚樹・東海大学名誉教授 時間:
午後6時30分-8時30分

場所:在日メキシコ大使館 <http://www.mex-jpn-amigo.org/>

予約:culturalembjap@sre.gob.mx

el Día 6/21 スペイン語の日



国際的言語としてのスペイン語 への関心を喚起することを目的としたイベントの一環として、メキシコ料理や音楽、伝統衣装などが紹介される。サルサ やフラメンコ、タンゴ、その他若者や子供による パフォーマンスも行われる予定。12 時より。

<http://tokio.cervantes.es/es/>